

**総合科学部・ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部**

I 研究の水準 ..... 研究 1-2

II 質の向上度 ..... 研究 1-4

## I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 科学研究費助成事業の採択状況は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の平均49件（約6,250万円）から第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の平均75件（約6,760万円）となっている。特に、基盤研究（A）は合計19件（約720万円）から合計51件（約4,590万円）となっている。
- 受託研究・受託事業による地域と連携した社会活動数と社会連携数について、第1期中期目標期間と第2期中期目標期間の合計を比較すると、社会活動は552件から813件、社会連携は72件から76件となっている。
- 学会発表等による受賞数は、第1期中期目標期間の平均9.3件から第2期中期目標期間の平均17.2件となっている。

以上の状況等及び総合科学部・ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に人文地理学、分析化学の細目において特徴的な研究成果がある。また、日本植物分類学会の論文賞や日本地域学会著作賞をはじめとして103件の受賞がある。
- 特徴的な研究業績として、人文地理学の「古地図・絵図を活用した歴史GIS研究」、分析化学の「実験室系X線分光法による機能性無機材料の化学状態精密分析」がある。
- 社会、経済、文化面では、特に環境リスク制御・評価の細目において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、環境リスク制御・評価の「越境大気汚染物質（PM2.5）の研究」があり、平成24年度に管理状態の悪い石炭火力発電所が原

因である証拠となる高濃度の石炭灰とススを樹氷から発見したことで、全国の自動観測点が 1,200 か所に倍増するとともに、平成 26 年度に専門書籍が出版されるなどしている。

以上の状況等及び総合科学部・ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、総合科学部・ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の専任教員数は 130 名、提出された研究業績数は 55 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 49 件（延べ 98 件）について判定した結果、「SS」は 1 割未満、「S」は 4 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 14 件（延べ 28 件）について判定した結果、「SS」は 1 割未満、「S」は 5 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 科学研究費助成事業の採択状況は、第1期中期目標期間の平均49件（約6,250万円）から第2期中期目標期間の平均75件（約6,760万円）となっている。特に、基盤研究（A）は合計19件（約720万円）から合計51件（約4,590万円）となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学会発表等による受賞数は、第1期中期目標期間の合計56件から第2期中期目標期間の合計103件となっている。また、日本植物分類学会の論文賞や日本地域学会著作賞等を受賞している。
- 文系・理系の各分野で卓越した研究成果や特徴的な研究成果があり、特に「古地図・絵図を活用した歴史GIS研究」、「実験室系X線分光法による機能性無機材料の化学状態精密分析」、「越境大気汚染物質（PM2.5）の研究」等の成果があげられる。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。